

第3回 中等日本語教育授業教案コンテスト

教 案

【注意事項】

※項目は全て埋めてください。

※実際のクラスを想定しながら、学生に対する指示や説明、やり取りの言葉など詳しく書いてください。

※授業時間は、1 コマ 40～45 分です。 ※教案は日本語で書いてください。

学校名：蘇州市第三中学校		姓 名：王瑩		
使用教科書：必修2 第 8 課 (全 7 コマの内、本教案は 7 コマ目) 1 コマ 45 分 【要選択】 (高校) 2 年 クラスの人数 20 人 【要選択】 第一外国語 日本語学習歴 1.5 年				
この授業の到達目標 日本の友人に中国のゴミ分別の特徴を示し、日本人が蘇州でゴミ分別のルールに適応していない問題を解決する。学生の言語聞く、話す、読む、書く能力を強化し、学生の観察、分析、着手、帰納、総括、協力能力を育成する。学生の批判的思考の質を向上させる。				
この授業の学習項目 1. 日本のごみ分別の特徴をまとめる 2. 蘇州のゴミ分別を調べる 3. 中日の共通点と相違点をまとめる 4. 蘇州にいる日本人を助ける				
時 間	段階 (授業の 流れ)	練習・活動の内容(詳しく書いてくだ さい)	練習・活動の目的	注意点・ 使用するもの
2 分	ステップ 1	人民網で描かれた日本人が中国シリーズの漫画を読むことを見せる。1 枚目は中国で生活している 3 人の日本人。2 枚目は上海でゴミ分別が実施された後、日本人は上海でゴミ分別のルールに困惑している。この授業の話題を導入して、日本人は上海蘇州地区のゴミ分別のルールに適応していないので、私たちはどのように助けてあげるのか。	漫画を通して、この授業で解決すべき問題を直感的に引き出す。	①適当な漫画を捜す ②正解には決まったこのはない
5 分	ステップ 2	日本人はなぜ難しいと感じるのか。それは両国のゴミ分別に違いがあるからだ。このステップはまず日本のゴミ分別を振り返って、これからステップ 4 で区別するために必要な基礎を築く。また、前回の授業内容を簡単に復習してまとめる。	学生が事前に PPT を作成して発表することで、前回の授業の内容を示し、学生の要約能力、言語表現能力を育成する。	日本のごみ分別に関する PPT の作成は事前に学生に配って、そして発表する

※2 ページ以上になってもいいです、詳しく書いてください。ただし、項目は変更しないでください。

5分	ステップ 3	なぜ日本人は中国の地元でゴミを出すのに慣れていないと思うのか？蘇州のゴミ分別のルールを検討し、学生の自作自演のビデオを通して、蘇州のゴミ分別を紹介する。また、蘇州のゴミ分別のルールと特徴をまとめる。	学生の観察・着手能力および情報収集・表現・要約能力を育成する。	使用するもの：学生の自作自演ビデオ
11分	ステップ 4	ステップ 2、3 の相違点をまとめることで、本授業で最初に示した日本人が蘇州でのゴミ捨てに慣れていないことを説明する。宣伝を強化し、より多くの蘇州にいる日本人に蘇州のゴミ分別を知ってもらう。学生が共通点と相違点をまとめ、慣れていない原因を分析する。ポスターの形で表現する。それぞれのグループはタスクが配され、そして紙に書いて、ポスターに張る。各グループに四人に分かれる。 タスク： グループ 1. 中日ゴミ分別の同じ所 グループ 2. 日本人の困惑 グループ 3. 蘇州のごみ分別の便利さ グループ 4. 日本人へのアドバイス	比較を通して、学生の文化意識を向上させ、蘇州のより最適化された分別ルールを通じて、学生の文化自信を向上させる。ポスターの作成により、学生の論理的思考能力とグループ協同能力を育成する。	はっきり区別するために、各グループの紙は違う色を使用する。例えば、ピンク、黄色、緑、青。
2分	ステップ 5	蘇州のゴミ分別を知った後、私たちはどうやってその日本の友人を助けるのか。日本人が蘇州でゴミ出しに慣れていない状況を解決するために、教師はいくつかの必要な日本語表現を提供する。	学生の日本語の総合言語の表現能力を向上させる。	参考になる文法は使わなくてもかまわない
13分	ステップ 6	もしゴミ捨てに慣れていない日本の友人に会ったら、私たちはどうやって助けてあげるのか？各グループに5人に分かれて、ロールプレーをする。仮定場所はそれぞれデパート、遊園地、団地、学校である。自由に選択する。	学生の言語能力の育成を強化し、実際の生活の中でどのように日本語を有効に使用するかを体験させ、言語教育を本当に生活と結びつけ、インタラクティブ競争性と面白さを増やす。	いくつかの道具を準備する。例えば、ペットボトル、トウモロコシ、タピオカなど。使わなくてもいい。
5分	ステップ 7	評価表に基づいて、各グループがほかのグループを評価する。そして、先生が受賞する。それぞれは最優秀演技賞、最優秀音声賞、最優秀アイデア賞、最優秀効果賞。 ps：もし教室の後ろにほかの先生がいれば、四つのグループのパフォーマンスを採点してもいい。 評価表は以下の付録 1 に示す。	学生の総括能力を強化し、学生の問題思考の観点を整備し、学生の批判的思考を育成する。	現場で点数を速く集計するためには、計算機を用意する必要がある。

※2 ページ以上になってもいいです、詳しく書いてください。ただし、項目は変更しないでください。

2分	ステップ 8	本授業の内容を振り返って、宿題をする。 宿題： もしあなたが生態保護に関する中日の交流活動に参加したら、自分の故郷のゴミ分別のことを紹介しますので、この授業の内容に合わせて、スピーチ原稿を書いてください。	中日のゴミ分別の違いを考えるし、授業全体の内容に合わせて、日本人が蘇州で使いやすいゴミ分別案を考えることは、学生の総括能力と文化自信を育成する。	
----	-----------	--	---	--

工夫点・アピールポイント（どの部分に力を入れて作成したか、どの部分に注目してほしいか など）

1. ネット上で人気のある漫画に焦点を当て、授業の開始となりました。
2. 生徒一人一人の日本語能力に合わせ、簡単な質問やPPT作成、発表、ロールプレーといった難易度の違うタスクを用意しました。
3. 授業素材の展示方式にも工夫を凝らし、元の素材を使わずに、自分で作った素材を使いました。例えば、グループで自作自演のビデオを作って、確かに時間が掛かります。しかし、生徒に新鮮味を与え、楽しく学べる雰囲気を作ります。
4. ロールプレイの際は、できるだけ実際に近い場面を作りました。
5. 言語習得だけでなく、発表のマナーからも日本の文化について学び、生徒の全面的な能力を育成することができます。

★研修会でどんなことを学び、どのように授業に活かしたか。

(例：〇〇の講座で◇◇について学び、授業では△△の部分に取り入れた など)

1. 林洪先生から習った言語能力、学習能力、思考の質、文化意識という日本語学科の核心素養は授業全体を貫いた。
2. 教科書をどう使うかー核心素養育成を目指す場合（李家祥先生）から習った評価表現ー協同学習でバランスをとりました。勉強できる生徒と勉強できない生徒みんな参加できるように気を配りました。
3. 「Can-do」を目標に、生徒が自ら学べる、またはグループ活動や協働学習を通して、日本語を活用できる。

参加年：2019 年春季全国中等日语教育教师研究会

付録 1

評価表					
グループ ()	賞	評価内容	点数	評価要点	点数
	最優秀効果	効果		テーマに関する	10 点
				実際の問題を解決する	15 点
				効果的	20 点
	最優秀音声	音声		間違い五つ以内	10 点
				間違い三つ以内	15 点
				間違いない	20 点
	最優秀演技	演技		会話ができる	10 点
				すらすらしゃべる	15 点
				チームワーク	20 点
	最優秀アイデア	アイデア		道具を使う	5 点
				アイデアに富む	5 点
				合計点数	

※2 ページ以上になってもいいです、詳しく書いてください。ただし、項目は変更しないでください。